
死亡時計

島田海斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死亡時計

【Nコード】

N7842Y

【作者名】

島田海斗

【あらすじ】

僕は腕時計を買いに近くの時計屋に行った。その時計屋で初老の男性（店長）に出会い、黒い高級そうな腕時計を手首につけてもらった。その時計をつけたせいで、1日10分全力で様々な出来事から逃げなければならぬ死のゲームが始まった。

ゲームを開始します

僕（川上学園2年6組 井端涼太）の人生が腕時計一つで滅茶苦茶になるなんて思ってもみなかった。

2012年6月21日。

近所にとある時計屋ができたらしく、そこに向かうために歩いていった。

今日はどす黒い雲が空を支配して、空からは雨という名の水が降ってきていた。

おかげでズボンの下の方が濡れていた。

「はあく、ズボン濡れてるじゃん。最悪」

別に時計がほしいわけではないが、新しく出来た店という事でその店の中に入ってみたいというだけだった。まあ少し腕時計をしてみたい気もあるからこの雨の中を歩いているんだけど。

だって腕時計ってカッコいいじゃん

5分位歩くとそれらしき店舗が見えてきた。店は新しく出来たという割にはとても汚らしい。

本当にここか？と思って店の中覗いてみたが誰もいなかった。その時いきなり目の前に初老の男性が現れた。

「うわっ！！！！」

僕は驚いてその場に倒れてしまった。

初老の男性は扉を開けて手を貸してくれた。

「ようこそ。 宮川時計店へ」

初老の男性はタキシード？ 見たいな服を着ていてとてもカッコよく見える。

「あ、ありがとうございます」

「あなたにぴったりの時計がありますよ」

「へ？ 僕何にも言ってますんよ？」

「大丈夫です。 絶対あなたは気に入りますよ。 今、持ってきますのでそこで待っていてください」

そう言って店の中に入っていった。

僕はそのまま言われるがままに店の扉の所で待っていた。

少しするとデジタルの腕時計を持ってきた。

その腕時計の黒い色がまた腕時計を高そうに見せていた。

「これをあなたに差し上げましょう」

そう言って僕の手首に時計をつけてくれた。

「え？ お金は？」

「お金は結構です。 その代わりに頑張ってください」

「何を？・・・」

そう言った瞬間、時計から機械の音声が聞こえた。

『ゲームを開始します』

「ゲーム？」

『あなたは今から1日10分、死の時間を逃げ切ってください。死の時間帯は様々な出来事がおき、あなたを殺そうとします。なお、このゲームを終了する方法は自分以外の10人の死の時計の所有者が死ぬか、自分で殺すその2種類です。最後に残っていた所有者は何でも好きな願いを一つかなえる事ができます。最後に時計を壊されたり、壊したりすると強制終了でこの世から消えます』

何だこれ？とおもって初老の男性の方を見ると初老の男性はいなかった。

店もただの空き店舗になっていた。

「ど、どういうことだよ」

もう一度時計を見ると表示が時間から10分間のストップウォッチに変わっていた。

ピツという音とともにストップウォッチが動き出した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7842y/>

死亡時計

2011年11月23日12時53分発行